

---

# 太陽と向日葵

ハナミチ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

太陽と向日葵

### 【Nコード】

N4646F

### 【作者名】

ハナミチ

### 【あらすじ】

所謂一般人のヒメと、芸能人のヒロ。二人の想い合う気持ちだが、芸能界という大きな壁にぶつかりすれ違いが始まる…。

## 第一話・キラキラ

ヒロと身体を重ねるようになってから、もう既に3か月。

もちろん、身体だけの関係じゃないけどね。

ヒロと出会ったのは、もう半年以上前。

仲が良かった慶から紹介したいって言われて紹介してもらった。

慶は幼馴染で昔から仲が良かったんだけど、数年前から芸能関係の道に進んでからは、忙しいみたいでなかなか会えなかった。

もちろん、テレビとかにもよく出るようになって、それがちょっと嬉しかったりして。

そんな慶から紹介したいヤツがいる、なんて言われた時はびっくりしたけど、慶曰く悪いヤツじゃないらしいし紹介してもらうことになった。

初めてヒロに会った時は、慶と一緒にテレビに出てる人だ、なんてミィハーな気持ちも無かったとは言えないけど。

それでも、最初は三人で遊んでいたのが二人きりになって……。どんだん私にはない魅力をヒロに見つけていて。

…気が付いたら、好きになってた。

自分の気持ちに気付いてからは、私の人生史上初めてって言う位悩んだ。

だって、相手は友達の友達で、芸能人で…。

それでも、この想いはとどまるどころか、どんどん大きくなるばかり。いつそのこと、もう会わない方が良くないかとまで考えてた時…。

「ヒメ、俺、お前、好き。」

単語ばかりの言葉だったけど。

ヒロの気持ち、いっぱい、いっぱい、詰まっていたその言葉で、私の中の最大の悩みを一瞬で解決してくれた。

それ以来、私たちは付き合っている。

二人で話し合って、せめて慶だけにはこの事を伝える事にした。慶にはすごい感謝してるし、何よりも隠し事をしたくない。

二人揃って慶の所に行き、報告する。

最初はすごい驚いてたけど、笑って「やっぱりね。」って言われた。なんか読まれていた気がして恥ずかしかったけど、それでも慶が応

援してくれるって言うてくれた時はものすごい嬉しかった。

でも、なんだかんだ言っただけで芸能人って色々大変そう。

ヒロは私と同じ年だけど、学校もまともに行けなくらい仕事ばかり。

そりゃ、ヒロも慶も頑張っているんだから、売れて有名になって欲しい。

彼らの努力は割と知っている方だと思うから。

朝から晩まで、稽古だの雑誌撮影だのラジオだの…。

特に売れてきた最近では…

なかなかヒロに会えるヒマすら無い。

ただ、どんなに忙しくても、ヒロは少しでも休憩時間が出来たらすぐにメールをしてくれる。

その時間帯以外にメールや電話をすると、仕事だからあんまり返ってこないけど。

それでも、その短いメールのやりとりだけでも満足だった。

だって、ヒロの夢の負担にだけはなりたくないから。

ある日、いつも通り学校で1時間目の授業を受けていた時に来たヒロからのメール。

『明日、オフになったんだけど会えない？』

こんな時間からもう仕事をしてるんだな、なんて感心しつつ急いで返信。

ヒロの休憩時間が終わってしまっから。

『予定は今のところ入ってないよ。明日は土曜日だけとお休みなの？』

『うん。ロケが入ってたんだけど延期になったんだ！明日、一緒にデートしようよ！』

『うん！楽しみにしてる！！』

『あ、じゃあ、俺はそろそろ仕事に戻るね。また連絡します。』

5

そうメールが来てから、すぐ連絡が途絶えてしまった。きっとヒロの事だから、オフって知ったらすぐ連絡してくれたんだろっな。

明日は久しぶりにヒロに会える、そう思うと週末の憂鬱な授業も頑張れるような気がした。

学校が終わってからと言うものは、明日どこに遊びに行こうかって事で頭がいっぱい。

ああ、なんて私って単純なんだろう…。  
そっいや、まだヒロからメールが来ないってことは、まだ仕事なのか？

私なんて、もう自分の部屋のベッドでごろごろしてるっていつのにか、

朝から晩まで大変だろうな。

なんて考えてると、待ち望んでたメールの着信音。

『ごめん、遅くなった！明日、どうする？』

『大丈夫だよ。それよりこんな時間まで仕事で疲れてない？明日は寝てなくていの？』

『全然平気だし！っていうかヒメに合わない方が死にそう！早くヒメに会いたい。』

うわ、すっごい恥ずかしい。

でも、嬉しいから保護してる私も私だなあ…。

『じゃあ、明日は昼頃に一回ヒロの家に行くね。それまで寝てていいよ』

『…申し訳ない！！午後はヒメの好きな所に行こッ！』

『わかった！じゃあ、疲れてるだろうから早めに寝てね！おやすみ。』

『ありがとう！ほんと愛してるよ。おやすみ。』

そしてヒロからのメールを確認してから携帯を閉じる。

本音を言っちゃえば、明日は一日中一緒にいたいけどさ。

でも、私の為にヒロばかり犠牲になつてほしくない。

ただでさえハードな日々を過ごしてるんだらうから、たまのオフく  
らいはゆっくりさせてあげたい。

じゃないと、ヒロの体が壊れちゃうしね。

私がそう言わないと、ヒロはきっと私の事を想って無理しちゃうだ  
らうから。

だから、私が少しだけ我慢すればそれで上手くいくはずだよな？

明日はちょっとだけ早く起きて、身支度をちゃんとしよう！

それに、早く行ったらヒロの寝顔も見れるかもしれないし。

こうやって、キラキラした明日を考えて眠るのは久しぶりで、小学  
生みたいに眠れない自分に思わず苦笑してしまう。

何度も何度も目ざまし時計をチェックして、携帯電話を確認。

ああ、早く明日にならないかな？

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4646f/>

---

太陽と向日葵

2010年10月12日04時57分発行